

2020年3月期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社
2020年5月14日（訂正2021年5月14日）

注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2020年3月期第4四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

| 【億円】 | 20年3月期 3Q | 20年3月期 4Q | 対前四半期 | 19年3月期 (単純合算) ⁵ | 20年3月期 |
|-------|--------------|--------------|-------|-------------------------------|--------|
| | 売上高 | 2,544 | 2,796 | +252 | 12,639 |
| 営業利益 | ▲205 | 121 | +326 | 1,163 | ▲1,731 |
| マージン | ▲8% | 4% | +12pt | 9% | ▲18% |
| 当期純利益 | ▲253 | 98 | +351 | 565 | ▲1,667 |
| マージン | ▲10% | 4% | +13pt | 4% | ▲17% |

補足情報

| | | | | | |
|-------------------------|-------|-------|-----|--------|--------|
| 減価償却費 | 1,050 | 1,052 | +2 | 3,551 | 4,117 |
| PPA影響 ² | ▲288 | ▲273 | +15 | ▲2,272 | ▲1,128 |
| 停電影響 ³ | 11 | 0 | ▲11 | 0 | ▲334 |
| リファイナンス等影響 ⁴ | 0 | 0 | 0 | 0 | ▲194 |
| 法人税等費用 | ▲80 | ▲79 | +1 | 169 | ▲728 |

- 20年3月期3Q、4Q及び20年3月期は連結財務諸表、19年3月期は18年4月～5月はPangealによる買収前、株式会社東芝連結時の旧TMCの連結計算書類（①）、18年4月～19年3月は2019年3月1日に単独株式移転により完全子会社となった新TMCの連結計算書類を引き継いで作成されたTMCHD（現キオクシアホールディングス㈱）の連結計算書類（②）の単純合算数値（①+②）を基に作成、全てIFRSベース、①及び①+②は未監査
- Pangealによる旧TMCの買収に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額

- 停電による仕損品に関わるコスト、未稼働期間の製造固定費、修理費に、2Qについては停電により増加した製造コストのJV契約に基づく按分を加味した会計上の営業利益への影響額であり、売上関連等の影響額及びその他軽微な影響額を含まないが、保険収入11億円を345億円の損失に考慮して334億円とした
- 借入金の期限前返済、優先株式の期限前償還に伴う一時的な影響額（営業外）
- 単純合算数値であり、表中の今年度の数値と厳密な比較をするために必要な各種調整は行っていない

ハイライト

足元の実績及び動向

| | 20年3月期 3Q | 20年3月期 4Q |
|------------------|---------------|---------------|
| GB物量 (QoQ) | 1桁%台後半の 増加 | 1桁%台前半の 増加 |
| GB単価 (¥, QoQ) | 1桁%台半ばの 上昇 | 1桁%台半ばの 上昇 |

- スマートフォン向けの物量は低調に推移した一方、SSDの物量は堅調に推移したことでGB物量は増加
- 需給バランスは昨年後半以降安定的に推移し、GB単価は前四半期に引き続き上昇

製品開発・技術開発

- PCIe® 4.0対応エンタープライズ/データセンター向けSSDの出荷（2020/2/21発表）
- UFS Ver. 3.1に準拠した組み込み式フラッシュメモリのサンプル出荷（2020/2/27発表）
- KIOXIAブランドのパーソナル向けフラッシュメモリ/ストレージ製品の発売（2020/4/15発表）

市場動向及び見通し

- 世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、スマートフォン向けの需要は一時的に落ち込むことが想定される一方、在宅勤務や動画ストリーミング等の消費者行動の変化を受け、PC及びデータセンター向けSSDの需要は堅調に推移する見込み

新型コロナウイルス感染症への対応

- 全国を対象とした緊急事態宣言の発令を受けて、四日市工場・キオクシア岩手においても、感染症拡大防止策を徹底しながら事業活動を継続

KIOXIA